

一般質問から

来年度予算は生活弱者への政策配慮を重点に



日本共産党議員団 飯田 敏勝

問) わずかな税源移譲と引き換えに本来国がやるべき予算を削る「三位一体改革」に反対し、来年度予算は限られた財源を有効に生かし、生活弱者に暖かい手を差しのべるとともに、借金が増加する箱物事業は当分延期せよ。

答) 今の三位一体改革は地方切り捨てに通じるので、全国市長会を通じて真の改革になるよう求めている。

予算編成には、財政立て直しを中心として、市民生活に密着する事業を重視する。中期財政計画の見直しを終え、具体的な内容の検討に入るが、箱物とはいえ必要なもの(健康増進施設)などは本来急ぐもの。その選択に当たり費用対効果など、慎重な検討をして実施したい。

問) 市営住宅の高齢化は市全体で40%を占め、冬期間の除雪に大きな影響を与えている。高齢化、バリアフリー化に対応し、冬期間の安全、安心のライフライン確保のために公営住宅の総合除雪対策をたてるべきでは。

答) 各地域の実情に応じて対応するが、高齢者福祉サービスの中で検討するとともに、お年寄りが安心して暮らせる街づくりを目指して、行政として研究していきたい。

網走市が行う各種行事の事業評価について



民主市民ネット 佐藤 伸弥

問) 事業評価は、各事業について、政策効果や事業効果を検証し、予算の見直しや、より効果的な事業の展開を狙いとするものである。その際に、コストの削減も大切ではあるが、本来求めた事業効果が得られず、結果としてコスト増になる事業のマンネリ化を是正することが、なによりも重要な点である。「網走市戦没者追悼式」「交通安全・社会を明るくする運動」等の行事については、よりよい目的達成のための手段や今後の方向性などを再度検討すべきと考えるが、市長の見解を。

答) 同一事業を長年実施していると、ややもすると実施をする事が目的にすり替ってしまう面があり、事業・行事の目的に沿って効果的に行われているか、常に点検し、マンネリに陥らない工夫が必要と考える。

問) 市民参加の各種行事の事業評価については、市民の意見や関係団体の意見を聞くことが事業評価の効果を高めていくことになると考えるが、こうした手法をとりいれることについて、市長の見解を。

答) 協働のまちづくりという観点から、他の自治体の事例等も参考にし、より望ましい評価システムの構築に向け、制度の改善・充実に努めていきたい。

水道料金の改定が上程される

第三回定例会に上・下水道料金の改定が提案されました。

現在の下水道料金は平成十二年四月から、下水道は平成九年十月からこれまで改定することなく維持してきました。

今後、使用料収入の落ち込みや償還金の増加から、このままでは十九年度末には両会計とも二億円を超える大幅な累積収支不足が見込まれると説明されており、市では、上・下水道事業運営の健全化と利用者サービスに万全を期するため、十七年四月から料金改定を行いたいとしており、今後、本格的な議論が交わされることとなります。

市職員の接遇について



民主市民ネット 谷村 尚祐

問) 今年度、職員に接遇マニュアルが配付され、半年が経過した。そろそろ笑顔が板についてきた頃だと思うが、その効果をどのように評価しているのか。

答) 半年が経過し、例えば、市民課窓口における取り組みでは、来庁者への挨拶の励行、言葉づかいなどを心がけた結果、市役所の堅苦しいイメージあるいは従来あった窓口への苦情など、ある程度改善されてきていると思っている。また、全庁的にも、電話あるいは来庁者への対応についても、改善されつつあると感じている。

問) 先日、郵便局が大々的に郵便サービスのアンケート調査を実施していた。市でも、来所された市民が帰る際、来所部署やその接遇について匿名でアンケートするというのは、市民の意見が反映され、効果があると思うがいかがか。

答) 提言のアンケート調査等の手法は接遇向上の上で、効果があると思うので、今後、接遇の評価をする中でその実施と手法について検討していきたい。

問) 接遇に関する職員研修も必要と考えるがいかがか。

答) 今年度から、計画的に民間講師による接遇研修を行うべく予定している。

編集後記

本会議に提案された案件は、その会期中に可否を決めるのが原則です。しかし、その例外として「継続審査」という議決があります。

九月議会では水道料金の改正案や指定管理者制度に関わる施設条例など、近年にない十一本もの議案が継続審査に決定しました。

案件によっては、審議の迅速性と合わせて慎重審査という視点もあります。議会だよりでは、限られた紙面であり、審議のポイントのみの掲載になります。

一度、傍聴にお越し下さい。

(事務局)